
流星群～自由に奏でた田舎少年～

ミヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

「」のPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星群～自由に奏でた田舎少年～

【ZPDF】

Z0413D

【作者名】

ヤミ

【あらすじ】

あなたは夢を持っていますか?「」の物語は田舎に暮らす少年が、大きい夢に向かって進むお話です。少年の前に立ち塞がる壁。夢を叶えるためにどんな困難にもいろんな仲間と立ち向かう姿を物語にしてみました。

プロローグ（前書き）

どうも初めまして。産まれて初めての小説だから理解できなこところがあるかもしれません。

例えば会話の中で東北訛りを度々使うと思います。読んでくれる人みんなに楽しんでもらいたいので、ある程度は解説も一緒に書きますが

もし分からぬ言葉がありましたら遠慮なくお申し付けください。

プロローグ

子供の頃どんな夢を持っていましたか？

警察官。大統領。ボクシングチャンピオン。

その夢はいつの日か無くなり、また違う夢を持つ。

畠田 雅樹 16才

東北地方の田舎に住むこの少年は「ヨーロッパ」になりたいという夢を持っている。

少年は心に決めた。これだ。

「ヨーロッパ」は楽になれるものじゃない。

無謀な挑戦とも言える少年は夢を叶えることができるのか。
それともまた挫折してしまうのか。

それでは早速、彼の人生を覗いてみましょう。

第一曲 人生を変える日

『やべえ…バンドやるひばー！バンドー！』

思い出した。この一言で俺の人生が一気に変わったんだ。

高1の秋

『ミヤ、今日暇? ミヤん家で遊ぶべー！』

『いいよ』

今日家に遊びに来るのはタカだ。

タカ

タカは筋トレが趣味で毎日鍛える。

優しい顔して性格もナイス。タカにあまり彼女ができるないことに俺はずつと疑問を抱いていた。

家は高校から1Kmもない。こんな近さから、いつしか家は暇人の溜まり場となっていた。

確かに家は3階建ての家で、1階は卓球台やパチスロ台があり、3階の俺の部屋ではゲームがあつて昼寝もできる。

家の前でもバスケ、サッカー、野球などもできるから友達も家で遊びるのが好きみたいだ。

もちろん俺もこの家は好きだ。でも…。

『あーこれギタードラじゃねーやりたいー！

タカが目を輝かせていう。

ギタードラはPS2の音ゲー。ドラムとギターでセッション（演奏）する結構楽しいゲームだ。

そしてこのゲームには専用コントローラがあり、それを本体に繋げると更にリアルに楽しめる。

俺も昔はこのゲームは結構得意だった…。

『ミヤ、ドラム叩けんの？』

『当たり前じやん！』

自信満々に言つてみた。そしたら…

『じゃあ俺ギター やるからドラムやつてー。』

タカはそう言つて、俺にドラムをやるよつて言つた。

（やっぱ…これ中学以来やつたことねえよ。

でも今さら嘘だよなんて言えないし。）

曲が始まると同時に少しづつ感を取り戻し始めた。レベルの低い曲を選んだのが正解だつた。

そんなにミスらずに済んだからだ。

『すげえ！本当に叩けてんじやん！すげえなミヤー。』

『あはは…あんがと。』

なんとか恥を欠かずに済んだ。

この後もずっとギタードラを一人で盛り上つて楽しんだ。

タカは電車の時間が近づいてきたから帰る支度を始めると、

『ミヤはドラム叩けたんだなあ これはヨッシーに知らせなきや。』

『何で！別に知らせなくていいよ！俺アイツとあまり仲良くないし。』

ヨツシー

タカと仲が良くていつも一緒にいる。ヨツシーを初めて見た時の第一印象は悪かったから仲良くなる気はあまりなかった。

『ヨツシーは確かに感じ悪いけどいい奴だよーじゃあまた明日学校でね！バイバイ！』

タカが俺に手を振る。

『うん。また明日！バイバイ！』

と言つて俺も手を振る。

次の日

教室のドアを開けると数人の友達が一つに固まって会話をしていた。タカもその中にいた。

『あ！ミヤー！聞いたよ！ドラム叩けるんだって？』

大声で俺の元へ来たのはヨツシーとバンだ。

バン

クラス1のイケメン。あまり学校に来ないけど変態で面白いやつだ。ちなみにバンもタカ同様、家の常連客である。

(さうそくか…てかタカのやつバンにも話したのか。)

まつりつか…隠してたわけでもないし。

『簡単なやつだけしかできないんだけどね。』
俺がそう言つと

『へえー。以外だなあ。俺もベースできるんだけど俺達バンド組む
か!?』

『…え!? バンド?』

『いーじゃん! ジャあ俺がヴォーカルやる!』

ヨツシ一がヴォーカル…。俺にとつては少し複雑な気持ちだ。

『バンド組むと楽しいぜえ!』

(バンの野郎…余計な事を。)

軽くバンを睨んだ。

別に組んでもいいけど、本当に俺でいいのか…?
ゲームでは確かに叩けたけど、本物は叩いたことがない。
できなかつたら…。

『ごめん、少し考えさせて』

そう言うとバン達は

『分かつた。なるべく早く答え聞かせてね!』

『うん。』

その日から俺はずつと悩んでいた。バンドを組みたくないと言えば嘘になるけど、実際本物のドラムを前にして叩けなかつた場合、きっと俺をバンドから外すだろ。それは別に構わない。
でもその後、友達として仲良くなれるのか凄く不安だつた。
仲間外れとかするのもされるのも嫌いだからとても恐かつた。

そのまま答えが出せずに何ヵ月も過ぎた。
いい加減バン達に答えを聞かせないと…。
バンやヨッシーもこのままこの話を自然消滅されたら腹が立つだろ
う。

というより、あの一人は本気でバンドを組む気なのか。
これだけ待たされても平気な一人を見ると正直疑つてしまつ。
このまま忘れてくれるのを待とうか。そんな事を考えたこともあつ
た。
でも、それじゃ自分自身納得がいかない。

答えを出せり。

俺にとつて人生を変えた口がやつてきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0413d/>

流星群～自由に奏でた田舎少年～

2010年12月18日14時04分発行